未曾有の事故から九年

宮城・福島で 4・25安全問題を検証する集会

NRU
国労せんだい
No．2676
2014年5月25日
発行責任者 大沼　元
編集責任者 武田 昌仙

地方本部は4月25日、仙台市内と郡山市内において、「安全問題を検証する日」として集会を開催した。

この取り組みは、9年前の05年4月25日に発生したJR西日本福知山線での脱線転覆事故（死者１０７人、負傷者５６２人）及び、同年12月のJR東日本羽越線での脱線転覆事故、翌06年1月のJR西日本伯備線での触車死亡事故など、立て続けに発生した重大鉄道事故に鑑み、仙台支社内で発生した運転事故・労災事故等について検証し、教訓化するために06年から開催しているもの。

支社内の事故から学ぶ

仙台集会から

仙台集会は仙台市福祉プラザで開催。

参加者約60人全員が黙祷を捧げた後、地本大沼委員長は「二度と惨事を繰り返さないために、利用者と働く社員の側に立った安全対策や会社施策を求めていくため、支社内の事故について各職協の協力を得て調査・研究し、改善に向けた団体交渉を実施してきた。会社の言う『究極の安全』をスローガンだけに終わらせないよう、活動の強化を図る」とあいさつ。

個人への責任転嫁

職場報告として、電気協議会から立山昭仁氏は、昨年10月15日、東北本線塩釜ＳＰ（き電区分所）で発生した感電傷害事故の問題点について報告。

電気協議会立山氏

「会社は事故の原因として『開けてはならない扉を開けた。ルール違反だ』として感電した本人に責任を押し付けている。だが、こうした危険な設備を放置し、教育の不足、そして日常的に危険表示のある扉を開けていたことは明らかにしていない。」とし会社の対策を批判。その上で今回の事故を受けての団交では、背後要因に迫り、危険な設備の改修などハード面の対策を実施する方向性を引き出した成果について報告した。

人でなく設備改善を

運輸協議会家子氏

続いて運輸協議会からは家子栄悦氏が、昨年12月8日、磐越東線小野新町駅構内鬼石踏切で発生した、車両入換に伴う踏切無遮断事故について報告。

この事故は構内入換作業時、列車が踏切を通過するため踏切テコを扱い踏切警報と遮断降下をさせるのが遅れたため、結果的に無遮断で列車を通過させたもの。

家子氏は、「組合は個人への責任追求ではなく、原因の究明と対策（人間の注意力に依存した設備は問題であり、改良が必要）が必要だとの立場から支社と交渉をしている」と報告。

また設備のハード面対策（設備改修等）として、「警報テコを扱わないと鎖錠出来ないようにする」「警報テコを扱うとブザーが鳴る」などの改善を求めているが、会社は人的改善しか実施しておらず、対策の不備とマニュアルの改善を明らかにした。

安全確保に責任を

工務協議会佐藤氏

最後に、工務協議会より佐藤勝氏が昨年10月22日、磐越西線翁島・更科（信）間において協力会社作業員が労災死亡した事象について報告。事故は重機の先端にグラップルと言う木材を掴む装置を取り付け、木材を移動させる作業をしている最中に発生。グラップルで掴んだ木材が他の木材に接触し、接触した木材が作業員に衝撃し死亡した。

問題点は、①作業員が重機の作業半径＋木材の長さの中にいた事②グラップル作業は特異な作業であり重機操縦者の訓練が十分であったか③JRが安全問題で協力会社にどこまで責任を持つかの3点。

団交において会社は①については、危険区域を指定し立ち入る場合は重機のエンジンを切り指揮者の指示によること。②については、安全教育を受講した重機運転者を従事させる。③は、協力会社は工事着手前の施工検討会や日々の保安打合せ票、災害防止協議会、安全パトロールを実施するとしているが、当然のことであり遅きに失したと言える。

協力会社が対策を明示しても実行させなければ「絵に描いた餅」。JRは安全の確保について下請け・孫請けまで責任を持つべきと追及したと報告した。

郡山集会では

また同日の郡山ビックアイでの集会には50人の組合員が結集。

参加者全員が黙祷を捧げた後、地本歌川副委員長が、開会のあいさつとして地本安全問題プロジェクト会議での取組や議論の経過を報告し、地本を代表し原子書記長があいさつを述べた。

職場報告では、電気協議会として堀切彰氏が東北本線塩釜ＳＰで発生した感電傷害事故の問題点について報告し、また運輸協議会として加藤孝一氏が磐越東線小野新町駅構内での踏切無遮断事故について報告をした（内容については仙台集会と同様）。

電気協議会堀切氏

運輸協議会加藤氏

続いて福島県支部放射線対策委員会小檜山聡対策委員長（工務協議会事務長）は、放射能汚染と労働環境改善の取組みについて報告。

支社は被曝対策を

工務協議会小檜山氏

小檜山氏は、「放射能汚染の環境下、会社に使用者責任を果たすよう改善を求め交渉を重ねたが、産廃問題では国労の指摘により一部前進があったが、除染や線量測定、被曝対策については再三の追及にも全く応えていない」と述べ、仙台支社の態度を批判。

続いて、現在の状況と環境をどう捉えるべきか、また今後の課題についても詳細に報告した。

更に福島県支部小檜山広幸委員長が補足説明を行い集会を終えた。

4・5　第40回安全問題プロジェクト会議及び第31回各支部業務部長合同会議
4・12　第52回アスベスト対策委員会
4・14　婦人部常任委員会
4・20-21　第8回地方執行委員会
福祉問題学習会・慰労会
4・21　団交（総合車セ業務改善）
4・25　安全問題を検証する集会（仙台・郡山）
5・9　第9回地方執行委員会
5・11　14春闘総括会議
5・15-16　東日本本部軟式野球大会
5・17　地本電気協議会定期委員会

誇りに満ちた鉄道人生

長い間本当にお疲れ様でした

国労運動を支え続けてきた先輩方

地方本部は4月20～21日、松島町・ホテル大観荘において「福祉問題学習会及び慰労会」を開催した。

会議には、14年度と15年度の退職予定者のうち、既に昨年参加した対象者を除いた16人が参加し、退職後の諸制度等について学習した。

シニアに関する諸制度とエルダー社員制度関連、またエルダー・嘱託社員の組合員継続の要請とアスベスト健康手帳取得などについて原子書記長が一括して説明を行なった。

続いて交運共済からは、東北支所仙台事業所伊賀所長より60歳以降の再雇用者・退職者の各種共済利用についての説明がなされた。

更に鉄道退職者の会仙台地方連合会からは沼下事務局長から積極的な加入の要請があった。

第二部の慰労会では、40余年に亘る鉄道人生で苦楽を共にした仲間との語らいが尽きることなく続いていた。

※参加された皆さん
（敬称略・順不同）

○桜井　勝彦　○長谷川賢一
○佐藤　武志　○瓜生　保
○鈴木　博文　○菊地　尚一
○土棚　一美　○青木　良夫
○今野　一郎　○及川　誠助
○伊東　義則　○高橋　和彦
○佐藤　和夫　○遊佐　貞明
○大河内　敏　○佐藤　博通

日程のお知らせ

○エルダー・嘱託組合員交流会
日時　5月25日（日）13時～
会場　仙台市青葉区中央市民センター

○安全問題プロジェクト会議
及び各支部業務部長会議
日時　6月14日（土）13時～
会場　地方本部会議室

○地本組織対策会議
日時　6月15日（日）13時～
会場　仙台市・自治労会館

○アスベスト問題学習会
日時　6月21日（土）13時～
会場　仙台市青葉パークビル10階

熱烈歓迎します！

4月25日朝、郡山工場支部は、郡山総合車両センターの北門で、新規採用者歓迎行動を行いました。

支部と分会役員5人が、「熱烈歓迎！入社おめでとう！」の横断幕を掲げ、国労加入案内等のチラシ配布を行ったところ、新規採用者のみなさんは笑顔でチラシ等を受け取ってくれました。【橋本通信員】

チラシ配布行動の一コマ

機関紙紹介

国労東北自動車支部は、昨年暮れから機関紙作成に力を入れ、この間28号の機関紙を発行している。

その発行ペースも10日に一回発行と、地方本部内の優良機関紙である「ろばた」や「郡工情報」などと肩を並べるほどだ。

発行責任者である自動車支部北山委員長は、「JRバス東北は、過酷な労働条件の一方で、低賃金に押さえ込まれており、毎年多くの社員が『自己都合』退職に追い込まれている。国労は少数ではあるが、手当を始めとした労働条件を変更させた実績もある。情報活動の強化は、少しでも現状を変える運動を前進させるための手段」と話し、更に「今春闘では、JRバス東北発足以来初めて賃金交渉を行うことが出来、５００円と小額だが有額回答が出された。一方で、夏季手当の加算額が大幅ダウン。今後も誠意ある回答を求めて奮闘する」と決意を示した。

なお、東北自動車支部の情報は、国労東日本本部のホームページの「地方本部」→「国労仙台地本」で他の情報とあわせてＰＤＦで閲覧可能。

退職のお知らせ

3月31日付
佐藤　廣さん
郡工車体科
（ＴＫＫ郡山）

梅宮　繁さん
郡山信通区
（テムズ若松）

4月30日付
千葉　正彦さん
仙石線駅連合
（ＴＳＳ）

斉藤　洋一さん
福島地区（保線）

山形　招一さん
仙台保線区

○エルダー退職
田中　長一さん
小牛田運輸区
（テクノ小牛田）

長田　努さん
仙総運転
（テクノ新幹線）

佐藤　家輝さん
会津若松地区
（テクノ若松）

後藤　恒美さん
郡山駅連合
（テクノ郡山）

長い間お疲れ様でした

※退職された方は、早期退職も含みます。